

四方拝

JJ1SXA/池

宮中祭祀は、天皇が国家と国民の安寧と繁栄を祈ることを目的におこなう祭祀のことで、皇居宮中三殿で行われる祭祀には、天皇が自ら祭典を斎行し、御告文を奏上する大祭と、掌典長(掌典職)らが祭典を行い、天皇が親拝する小祭があるそうだ。

その一つ「四方拝」は、元旦、寅の刻から黄櫨染御袍に身を包まれた天皇が宮中三殿の神嘉殿の南側に設けられた建物にお一人で入られて行われる、これは、遙か昔からの皇祖相伝の儀式(秘儀)であり、侍従も見ることができないそうだ。

天皇は、伊勢の皇大神宮、豊受大神宮の両宮に向かって礼拝された後、四方の諸神を拝し、そして、呪文を唱えられる、この呪文は、天皇御自身でなければ唱えられず、御代拝は認められないとのことだ。

呪文

賊冠之中過度我身

毒魔之中過度我身

毒気之中過度我身

毀厄之中過度我身

五急六害之中過度我身

五兵六舌之中過度我身

厭魅之中過度我身

萬病除癒

所欲随心

急急如律令

とても読めません、読み方は次の通りだ。

「ぞくかん しちゅう かどがしん」「どくま しちゅう かどがしん」「どくき しちゅう かどがしん」「きやく しちゅう かどがしん」「ごきゅうろくがい しちゅう かどがしん」「ごきゅうろくぜつ しちゅう かどがしん」「えんみ しちゅう かどがしん」「まんびようじょゆ」「しよよくずいしん」「きゅうきゅうによりつりょう」。

呪文の意味は、「総ての災厄などの悪いものは、皆、ことごとく我が身を通れ、我はそれを浄化したい」という決意を表明した内容である。

*「寅の刻」は、午前四時ころ

*「黄櫨染御袍＝こうろぜんごほう」とは、平安時代以降の日本の天皇が重要な儀式の際に着用する束帯装束の、「黄櫨染」色の袍のことである、令和元年(2019年)の即位礼正殿の儀における海外報道の多くでは、その色調は「brown-gold」と評された。

数多く、宮中祭祀はある、高齢になられた現上皇が、天皇の地位を次代へと譲位されたのは理解できる。

私の幼少の時代(小学校低学年の頃)、意味は分からないが、記憶に残る名前に、神嘗祭(かんなめさい)と新嘗祭(にいなめさい)がある、お饅頭が貰える日だった、貰ったお饅頭を後生大事に家に持ち帰る子が多かったが、私は食べてしまう方の仲間だった。hi